

2019

高齢者のための補助器具

Utensil for senior

AD 22 関根 遼平
指導教員 杉島 一男

1.研究目的

元気なうちは誰の世話も受けたくないと言っている78歳の祖母は家事から買い物まで自分でこなしている。よく外出をする祖母はシルバーカートを使わずレジ袋を手にも下げ、汗びっしょりになって帰ってくる。シルバーカートを使用しない理由は、お年寄りっぽく見えるからだと言う。そんな見た目を気にする高齢者達が使いたくなるようなカートを製作する。

2.調査と分析

・市場観察

■実際に若い気持ちをもった元気な高齢者について調べたいと思い、公園でゲートボールをしている年配の方々の様子を観察すると、意外に祖母と同じ元気な老人が多いことを感じた。

■老人ホームに訪問すると、介護を要する高齢者ばかりで元気な高齢者とは言えなかったが、最近の老人ホームの建物は老人ホームとは思えないモダンなつくりで、介護施設にいることを認識させないような精神的配慮がなされていると思った。

■お年寄りの象徴的な押し式のシルバーカートではなく、若者が使用するタウンカートのような引張り式を使う高齢者をよく見かけるようになった。

■おばあちゃん達の前宿と言われる巣鴨では赤パンツが風水的(赤のやる気とパワーで幸運を呼び込む)なところから人気を集めていた。

・シニア体験

高齢者の低下した身体機能では、僅かな段差でも躓きそうになったり、物に手をかける高さによって体を支えた時の楽さが違った。

3.コンセプトの立案

「老いていると感じさせない、おしゃれさ、使いやすさを兼ね備えたカート」とした。キーワードは、1 女性がファッションアイテムとして使えるデザイン。2 必要最低限の機能をもった手軽なカート。最も重要な点として、3 普段は引く式カートを使っているが、疲れた時など万が一の時には体の支えとなってくれる押し式カートになる。である。

4.デザイン展開

まず始めに押し式、引く式両方の機能を用いたカートを作らなければならないので、現在市場に出ている主流の商品をそれぞれピックアップし、検討した。

・押し式カートの場合

押しやすさと走行の安定性を考えるために、前輪の中心と後輪の中心、ハンドル中心軸との三点の位置関係が重要であり、また左右の車輪の間隔も考慮しなければならない。

・引く式カートの場合

後輪を隠すためハードケース本体にそのスペースを確保して、見た目のスマートさを維持し、且つ前輪のタイヤを大きくすることによって、より安定した走行性を目指す。

・両立の難しさ

三点の位置関係を求めたとき、そこに載せるハードケース自体が大きくなりすぎて見た目がおしゃれではないので、そこを改良するためにハードケースの高さと幅を定めた。

5.完成図



6.結論

完成品を祖母に見せ、作品の説明をしたところ「可愛らしいね」と言われ、引く式と押し式両方の機能が備わっている点にも賛同を得たが、物を入れるための収納方法と空間への配慮がなされていなかったことが今後の課題となっている。

7.参考文献

「介援隊」(<http://www.kaientai.cc/>)